

笑顔のプレゼント

シンガポール シンガポール日本人学校小学部クレメンティ校 4年 古川 心愛

「謝謝」「サンキュー」「ありがとう」。

わたしは、今年の4月からシンガポールに住んでいます。シンガポールは、東京と同じくらいの広さのところに、いろいろな国の人がからしています。そのため、電車やバスに乗っていると、いろいろな言葉がとびかっています。なれない生活に聞きなれない言葉、テレビでしか見たことのない人々に、はじめはかなりとまどいました。とても日本がこいしくなり、帰りたくなったこともありました。

そんなある日、母と買い物に行くと、買い物用のカートの車の部分が外れてしまいました。しかたなく、手に持って店に入ると、中国人のおばあさんが声をかけてくれました。母もわたしも何を言っているのかわからなかったけど、車りんが外れているのを心配して、自分の持っている物で直そうとしてくれていました。お店の人もその様子に気がついて、部品を持ってきて直してくれました。見ず知らずのわたしたちを心配してくれる、おばあさんの心づかいとお店の人のやさしさに、心が温かくなりました。

(直してくれてありがとうございます。とても助かりました。大切に使います)
と、心の中で思いました。でも、言葉にできません。

(中国語ではなんと言うのだろう)と考えているうちに、母がおばあさんの手を取り、「謝謝」と言っていました。わたしもまねをして、お店の人に「サンキュー」と言いました。

「言葉がちがっていても、気持ちをこめれば伝わるよ。」
と、母はお店を出てから話してくれました。

わたしも、おばあさんの心づかいを見習って、こまっている人を助けてあげたいと思いました。でも、それと同時に、言葉のかべがあります。

(わからない言葉で話されたらどうしよう)
と頭の中が不安でいっぱいになります。

そんなとき、わたしにチャンスが回ってきました。トイレに行ったときに、インドの女の子が手ふきの紙に手がとどかずにこまっていたいました。

(取ってあげようかな、でも……。)
まよっているわたしに、母はだまっとうなずいてくれました。

「どうぞ」。とっさに出た言葉は、日本語でした。でもインドの女の子は、「サンキュー」と言ってくれました。わたしが日本語で、親切にしてあげたことに、その子は英語でお礼を言ってくれる。自分で考えていたよりも、とてもかんたんで、心がほっこりする「親切」。

「親切」って、少しの勇気で、してあげた方もしてもらった方も、笑顔のプレゼントがもらえるすてきなことだなあと思いました。

これからは、笑顔のプレゼントをたくさんもらえるように、いろいろな国の「どうぞ」と「ありがとう」を心のさいふに入れて出かけます。たくさん使ってもいい心のさいふに入れて……。